おひさまだより

令和５年８月１日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森おひさま保育園

園 長　免出 智美

かんかん照りの太陽と共に本格的な夏がやってきました。「今日、プールある？」と水遊びやプール、ウオータースライダーなどこの時季ならではの遊びを思いっきり楽しんでいます。

しかし、毎日の猛暑に体調を崩しお迎えをお願いすることも増えてきています。感染症や熱中症対策など子ども達の健康管理・安全対策には十分気を付けていきたいと思います。ご家族やお子さまの体調がすぐれないときは、ゆっくり休まれるなど引き続き保護者の皆様にもご理解・ご協力をお願いいたします。

８月行事予定

月	日	曜	行　事　予　定
８	２	水	おひさま広場（未就園児）
	８	火	そうめん流し
	12	土	お弁当の日
	17	木	身体測定（幼児）
	18	金	身体測定（乳児）
	19	土	夏祭り お弁当の日
	28	月	個人懇談ウィーク（希望者） ９月16日まで 自然保育アドバイザー来園 （ひかり組川遊び）

※変更の場合あり

保護者参加行事：８月19日（土）夏祭り

水遊びは子どもの感覚を磨き、生きる力を与える

水遊びで一番に重要なことは『気持ちよさ』です。目や耳、皮膚感覚など五感を通して自然物と接していく中で、様々な物事に対する認識を深めていきます。そんな遊びの中で水は子どもの感覚を磨いてくれる万能素材なのです。水に触れるだけで心地良かったり、水の変化を感じたりすることもできます。水というのは自由に形を変えることができる、ものすごく自由度の高い素材なのが不思議でおもしろいところです。また「これくらいの量の水をこれくらいのコップに入れると何人分になる」などの基本的な量の概念も水遊びを通して学んでいきます。なぜ、水の気持ちよさを乳幼児期に経験することがいいのかというと『水が気持ちいい』という感覚は『この世に生きるに値する』ということに繋がるからです。お風呂に入って『気持ちいいなぁ』感じるのと同じく、気持ちいいという感覚そのものが生きる喜びでもあるし、遊んで楽しかったことが、次への色々な意欲へと繋がっていく。だから、小さいうちは、水にちょっと触れて戯れるだけでも、子どもにとって素晴らしい体験になるのです。

一方、最初は水が顔にかかるのを嫌がる子は多いもの。早く慣れさせようといきなり顔に水をかけるようなことは絶対にしないこと。もし、顔に水がかかってしまった場合は「あ、かかっちゃったね。わはは」「かかっちゃったね。冷たいね～」などお互い笑うようにしてください。水遊びは楽しいものだという経験を重ねながら水に対する抵抗感を徐々に減らし、一緒に『気持ちいいね』と安心感の中で水の感覚の気持ちよさや楽しさをお家の人と共感体験していきましょう。

参考文献：竹井史著「日本経済新聞」

ドキュメンテーションから抜粋（各クラス担任の１枚）

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。

どんぐり・たけのこ低月齢（０・１歳児）　「自分でできるよ」

自分でズボンを持ち足を抜いたり、立った状態でズボンを上げたりと自分でできることが増えてきました。保育者は行っている手順を一つひとつ言葉にして伝え、ハイタッチして達成感を共有しています。その達成感や自分でできたという経験が「自分でやりたい」という意欲にも繋がっていきます。

たけのこ高月齢（1 歳児）　「ふわふわ・とろとろ」

自分で混ぜてみたり集めて固めてみたりといろいろ試して行く中で、片栗粉の感触が変化していくことを楽しんでいる姿があります。その中で保育者が「ふわふわ」「とろとろ」等、感触を言葉にして伝えることで、言葉を知ったり、擬音語の面白さも感じています。

りす（2 歳児）　「大きな輪っかをどうする？」

輪をくっつける際に片手だと洗濯バサミが届かないことに気づき、手を添えて輪をくっつけてから洗濯バサミを使うようになりました。感性した物を持ち上げる際に洗濯バサミがずれて外れると、次はバランスを感じながら少しゆっくりと持ち上げていました。試すことを繰り返すことで、「こっちは？」「こうしてみようかな？」と試行をくり返し成功体験を増やしていきます。

うさぎ（3 歳児）　「トマトジャムづくり」

熟したトマトの食べ方を子どもたちと探す中で、ジャムのレシピが描いてある絵本に出会いました。一つ一つの材料に触れたり作り方を一緒に見て、子どもたちと一緒に作る過程を大切にしています。実際に目の前で切ったり煮たりすることで食材の形が変わる不思議さや面白さを五感で感じています。

そら（4 歳児）　「昨日の海で見つけたもの」

昨日見つけたヤドカリが少し元気がないので、エサを考えようと提案しました。図鑑を持って来て調べたり、事務所の先生に聞きに行ったりします。昨日持って帰った海藻があることがわかると、洗って食べさせようと友だちと協力してエサをあげ、クラスで飼うことになりました。自ら、生き物のことを知ろうとし、命を大切にする気持ちが芽生えています。

ひかり(5 歳児)　「初めまして！！」

「ゆめのはこども園ってどんな所かな？」「ゆめのはって夢の葉っぱってことかな？」と保育園の名前について想像を膨らませながら、出発します。室内に着くと、ゆめのはの子どもたちが遊びに誘ってくれて「やりたい！」「行く！」とおひさまの子どもたちも意欲的に遊びます。また来たい思いが膨らみ、「また来ていい？」と尋ねる姿がありました。交流する中で人との関わる力が育まれていきます。